

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970800060		
法人名	社会福祉法人 尽心会		
事業所名	ゆうゆうホーム		
所在地	高知県土佐清水市浜町1-23		
自己評価作成日	平成29年 10月 25日	評価結果 市町村受理日	平成30年2月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者を中心とした生活は当然のことですが、利用者一人ひとりが望む生活は様々であり、その希望に少しでも沿えるような支援を目指しています。本人の希望はもちろん、家族とも十分に話し合っ、意見、意向を聞き、安全性を考慮したうえで、出来る限りの個別支援や、皆で共にできる支援などを行いたいと考えています。

団体生活のため、いつも個人個人の対応が出来るわけではありませんが、できるだけ個人の希望に沿って、買物、理髪、外出、受診等の対応を行いたいと思っています。

また、利用者同士の関係も大切に考え、職員が間に入るだけでなく、利用者同士での助け合いなども自然に出来るよう、見守ることも大切に考えております。

自宅のようにはいかなくとも、利用者に暮らしやすいと思ってもらえるよう、また家族には安心してもらえるように、心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_kihontrue&amp;JiyosyoCd=3970800060-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2017_02_kihontrue&amp;JiyosyoCd=3970800060-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年12月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幡多地域で最も早く、土佐清水市に開設された事業所である。既存の建物を活用した2階建てで、階段を使用するため、歩行できる人という入所条件の制約はあるが、構造上の問題点を、職員は工夫しながら、利用者が安全で快適に過ごせるよう生活を支援している。家族が県外の利用者も、送迎を含め通院の全てを職員が対応してくれることで、より安心を得ている。利用者との時間をより多く作るため、今年の8月より食材の宅配を依頼した。裏庭には芋のつるが山になっており、利用者と共に育てた芋で焼き芋をして楽しんでいる。

職員全員で見直した理念では、尊厳を守りながら、笑顔で思いやりの心でケアを行うよう努めており、コタツの周りを囲む利用者からは、温かい家庭の雰囲気が感じられた。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員心得(運営理念)の、笑顔で、尊厳を守り、思いやりの心を持って生活を共有することを心掛けている。職員皆で、どのようなケアが必要か話し合っ共有し、日常生活を送る中で、職員同士、常に理念に沿ってケアするように心掛けている。	平成26年に、職員全員で理念の見直しを行った。日常生活を送る上で、尊厳を守り、笑顔で思いやりの心でケアを行うよう努めており、利用者だけでなく、職員も笑顔で働ける事業所を目指して、話し合っている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域代表にも運営推進会議に参加してもらい、地域の行事に声がかかって参加することもある。災害時に避難場所として、屋上への避難許可なども受けている。	町内会に加入しており、地域の溝掃除に職員が参加し、利用者も公園のごみ拾いを行うことがある。地域の行事には、今年は災害訓練のみ参加している。家族以外の地域住民が事業所を尋ねることはあまりない。	近隣住民の事業所への関心が薄い。今年は、地域の行事には殆んど参加しておらず、地域との関わりを大切に、事業所の存在をアピールするためにも、積極的な行事参加に努められたい。
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進介護で認知症ついてなどの話しをしている。区長が会議に参加しており、区長場に事業所パンフレットを置いてもらっている。市内の小学校での、福祉体験学習も行った。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容や意見等は定例の職員会で検討し、改善を求める意見には、皆で話し合っ取り組んでいる。その後の結果についても、職員間で話し合っている。会に参加できなかった家族には議事録などを送付し、意見をもらっている。	会議には市や社会福祉協議会の職員、地区長のほか、家族も参加している。事業報告や意見交換が行われており、外部評価結果も報告されている。	
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で意見や助言を得るほか、不明な点や質問等について、随時相談できる関係にある。	市への相談はよく行われている。民生委員と地域包括センター職員との連携をよく図り、入所前の家族の支援ができたケースがあった。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等にも参加し、また全職員で共有して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の出入りが分かるようセンサーを設置し、夜間の防犯目的以外の施錠はしていない。	帰宅願望がある利用者が1名いるが、玄関のセンサーで察知し、スロープで立ち止まっているところを見守りしている。階段は、危険防止のため、夜間のみ柵をしている。言葉の拘束をなくすように、職員は研修会参加を継続している。リスクに関しても家族に説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が交代で研修会に参加し、職員会での報告で内容を共有したうえで、話し合いや意見交換を行っている。また、高齢者虐待の報道のある度、自分たちはどうなのかと、職員同士で話し合っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修会等に参加し、学習している。日常生活自立支援制度を利用する利用者が実際におり、身元引受人がいらないという待機者もいることから、引き続き研修会等での学習が必要と考えている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に本人、家族に対して説明を行い、理解と納得を得ている。また、入所後も、不安や疑問が生じた場合にはその都度話し合いなどを行い、安心してもらえるよう、努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは面会時に意見を聞かせてもらっており、意見を受けた職員は、管理者、職員全体、法人本部等に伝え、改善のための対策をとっている。事業所便りに利用者の写真等も載せて遠方の家族にも安心してもらえるよう心掛けたり、苦情相談窓口などの連絡先も記載するようにしている。	県外家族からは意見を聞く機会が少ない状況にあるが、利用者は比較的要望も伝えることができるため、職員が日常生活の中で聞き取るように努めている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会で職員の意見や、要望等を聞くようにしている。また、日常生活の中で些細なことでも気の付いた点はその都度聞き、必要があれば話し合うようにしている。	毎月の職員会には、法人本部から施設長や事務長の参加もあり、意見も言いやすく、運営への反映も早い対応となっている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見や要望は、いつでも管理者が聞いて、直接法人本部に伝える体制にある。また、定期職員会に法人本部からも参加してもらい、直接要望等を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修会への職員参加ができるようにしている。法人内での研修には、希望者はもちろん、新人職員など経験の浅い職員なども積極的に参加させている。遠方の研修会には参加しにくいこともあり、近場で行われる際には積極的に参加を促している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でのグループホーム連絡会に参加し、各事業所での取り組みや問題点などを共有できるよう取り組んでいる。他にも、利用者、職員皆が参加しての運動会や花見などを開催しており、これからも多くのイベントを開催する予定。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者、家族方との面談を行う。また、入所後には日常生活の中での聞き取りはもちろん、普段から共に過ごすことで分かることは、どんな小さな情報でも引き出して、職員皆で共有している。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所の家族とは、少しの時間でも職員と話ができるよう心掛けている。近隣でも来られない事情のある家族は訪問したり、遠方の家族には電話などで対応をしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談や、医療関係者、相談員などとも連絡を密にし、本人と家族の要望や状態の把握をしている。必要としている支援や対応の把握に努め、入所後も変化がないか観察し、その都度対応している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員心得(運営理念)にもあげられているように、生活を共有することを心掛けている。職員が一方的に行うのではなく、利用者の気持ちを考え、押しつけたりすることがないよう、気を付けながら行動するように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、居室でゆっくり過ごしてもらったり、買い物や外出、外泊など、家族と共に過ごせる時間を大切に考えている。毎月の事業所便りでは、利用者の近況などを個別に記載するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で外出する利用者は、自由に行けるようになってきている。その他の利用者も、不定期ではあるが、職員と個別に外出している。希望に沿って以前からの美容院に通ったり、住んでいた実家の方面にドライブに行ったりと、交流を行っている。	美容院や実家方面にドライブすることで、馴染みの人や場所との関係継続に努めている。近隣のスーパーや店に買い物に行き、新たな馴染みの関係もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったり、また他の利用者が先に声をかけてくれたりすることがある。互いに助けあったり、気の合う利用者もおり、全体的に馴染みの関係はできているように思われるが、相性の合わない利用者同士には、注意して見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の家族が現在でも度々差し入れをしてくれたり、近況報告などしてくれることがある。退所後も、今後の相談があったときには地域包括センターへ同行するなど、できるだけの支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で思いや意向を聞き、職員で共有している。意志表示が困難な利用者についても、行動や表情の観察をしたり、返答し易い問い方などの工夫をしている。また、家族からは、どんな小さな情報でも得て、利用者本人の生活を支えていけるようにしている。	前回外部評価で課題となっていた、利用者の思いを次のケアプランにステップアップさせる点については、利用者の状態が3ヶ月毎にアセスメントされているものの、利用者や家族の意向や思いに寄り添うケアプランとしては、未だ不十分な状況にある。	比較的自分の思いや意向を聞き取れる利用者が多いとのことで、実際は本人に寄り添うケアが行われているとしても、ケアプランの書面上読み取れない。家族も安心できるよう、明確に本人の意向が反映されたケアプランに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人、家族、関係機関等から生活歴などの情報収集を行い、これまでの生活環境や希望などに少しでも沿えることができるよう心掛けている。また、共に過ごしていくなかで、得た情報なども取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズム、パターンを記録し、職員間で情報共有するなど、把握に努めている。状態の変化については、特に把握と共有ができるよう徹底している。利用者一人ひとりができることの違いもあり、個々のできる範囲を理解し、その人に合った対応を心がけている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見、要望を個別に聞き取り、職員会で話し合い、それぞれの意見や要望を取り入れたケアプランを立てている。家族からは、以前の生活歴や状態等を詳しく教えてもらい、参考にしている。	3ヶ月毎に、利用者個々のアセスメントを行い、ケアプランの見直しを行っている。受け持ち制となっており、毎月職員全員でのモニタリングも行われている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録を毎日記録している。職員間での情報共有ができるように、出勤時には目を通し、申し送りをして、利用者の些細な変化も把握している。介護計画の見直し時には、記録を活かして、職員会等で意見交換や話し合いをして、実践に努めている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて外出の支援や、その他家族の要望に応じている。家族が医療機関受診時に対応できない場合にも、職員が対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの商店、ガソリンスタンドを使用することにより、世間話をしながら情報交換をするようにしている。また、金融機関、病院、他施設など、何かあっても相談しやすい関係を築けるよう心掛けている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの生活の中でのかかりつけ医にも、継続して受診できるように対応している。市内の医療機関であれば受診時の付き添い対応もしている。認知症専門外来の受診も取り入れており、その場合には、市外となるが、職員が同行する。	協力医がかかりつけ医の場合には月1回の受診、専門医の場合でも、定期受診であれば職員が同行している。訪問看護は週2回あり、体温、血圧測定を行い、必要な相談を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、協力医療機関からの訪問看護を受け、日々の健康管理や助言を得るようにしている。また、緊急時には24時間、常に協力医と連絡が取れる体制としている。定期受診時などでも、看護師のサポートがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の場合には、医療機関、医師、相談員等と情報交換している。主に、管理者、ケアマネージャーが連絡調整を取り、担当医師や看護師とのカンファレンスをして、現状の理解や今後の話し合いなども行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を作成しており、過去にも1件看取りの事例がある。入所時には重度化、終末期の対応についても説明しているが、事業所には看護師がいないため、その点も含めて協力医療機関、訪問看護師、家族と十分に話し合い、方向性を検討している。	入所時に本人、家族の意向は確認しており、職員は看取りの研修にも参加している。入所条件を歩行できる利用者に限定しているため、重度化対応になると、他の施設への入所を勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にも冷静に判断、行動が取れるようにマニュアルを作成し、研修会への職員参加、医師や看護師からもアドバイスも得て、全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力で、年2回火災避難訓練を行っている。水害、土砂災害時の対応も、消防署と協議して、避難方法を検討した。また、事業所の訓練等でも近隣住民の協力を得て訓練したり、地域の訓練にも参加している。	火災訓練は、年2回夜間想定を含め初期消火の訓練と共に行われている。海がすぐ近くのため、地震による津波が一番心配であり、地域の地震訓練には参加している。近くに高台の避難場所があるが、階段が難しく、避難場所は高台にある母体法人の病院への自動車移動を考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格の違いを常に考え、職員の言葉掛けや対応は、日々、気をつけるように心掛けており、不適切な対応が見られたときは、周りの職員が注意し、管理者に伝えるなど、迅速に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な利用者にも、反応しやすい方法で、声を掛けている。たまに発せられる言葉であったり、表情を見逃さず、またそれを職員が共有して、利用者の希望の見極めるよう努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活を送る中で、利用者のペースで過ごしてもらえるように支援している。特に問題がなければ、自由に行動してもらい、一日のスケジュールはあり、声掛け等はするものの、個々の状態を把握した上で、利用者の自己決定を尊重している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族とも相談し、馴染みの美容院などがあればこれまでと同様に利用してもらったり、本人が希望する所を利用できるようにしている。また、着衣なども、できるだけ自己決定できるように支援している。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者には、準備や片付けなども手伝ってもらっている。地域からのもらいものも、調理している。月に一度は、行事食として利用者から食べたい物を聞き、手作りにしている。	昨年8月から、食材の宅配を導入している。月1回の行事食には利用者の好きな散らし寿司や、月見団子を一緒に作っている。畑やプランターには芋やエンドウの栽培もしており、芋ほりから、焼き芋等利用者に教えてもらいながら、季節の食材を楽しんでいる。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取は全員記録し、チェックしている。それぞれ個別に声掛けや並べ方などの工夫をして、対応している。また、自力で食べることができない利用者もおり、できるだけ介助が無くとも摂取できるような対応をしている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの状態に合わせ、一部介助で毎食後に口腔ケアを行う習慣付けをしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ、パッドに頼らず、その人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導の対応をしている。日中はできるだけトイレでの排泄を促すために、声掛けで促している。自らトイレに行く際には、その都度職員が同行し、対応している。	布パンツ1名、紙パンツ8名は尿取りパッドを使用している。職員は利用者の排泄状態を把握しており、排泄誘導を行っている。便秘のため下剤使用者も7名いるが、排泄習慣を把握して、誘導のタイミングを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ全員の排便確認を記録し、水分、食事量にも注意し、日常の運動や体操を心掛けて、便秘防止に取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせ、毎日入浴できる体制にしている。入浴するかしないかは、本人が決めている。現在では、入所者同士で、順番や時間帯なども流れができています。入浴拒否の利用者には、何日も入浴しないことがないよう対応している。	毎日入浴の利用者が3名、隔日入浴利用者が6名で、全員がゆっくり湯船にもつかり入浴を楽しめるよう、支援している。ファンヒーターで、脱衣室の温度調整をしている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は定時に巡視を行い、不眠の利用者にはその都度対応している。認知症で夜間起きている利用者への対応はもちろん、その隣室の利用者への配慮も行い、夜間の安眠の対応をしている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については、調剤薬局等より発行される内服表を確認できるようにしている。受診時に変更のあった場合には、ケース記録や職員の申し送り帳なども活用し、その都度確認できるようにしている。また、服薬の際にも、間違いがないように確認している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、畑作りや庭の草引きなど、日常の役割を持っている利用者もいる。カーテンの開閉の役目を持っている利用者は、開閉にそぐわない時間に開閉しようとするが、その都度根気よく時間を告げ、自分の仕事として続けられるよう支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	合同で外出すること以外にも、要望があればその都度、職員が同行して外出するようにしている。家族と話し合い、また、地域住民にも見守り、協力を依頼している。できるだけ外出希望に沿えるよう、職員体制を見ながら対応している。	11月には、母体法人の車を借りて、全員でみかん狩りに出かけている。通院介助が多いため、帰りにドライブして帰るなどして、外出の機会を作るようにしている。図書館に2週間に一度通う利用者の送迎も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しく、ほとんどの利用者が事業所管理だが、利用者には、必要な物があれば買えるということは常に伝えている。また、月に一度通帳残高を知らせて、残金確認も行っている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいという利用者には、その都度対応している。難聴などもあり、聞き取りにくいときには、職員が伝える支援を行っている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて職員が花を持ってきて生けたり、行事の写真を飾ったりしている。また、散歩途中で摘んだ花を飾ったりもしている。建物自体が新しい施設ではなく、すべてを最善とはいかなくとも、利用者の不都合にならないよう、掃除や片付けは心掛けている。	共有空間には、月別に職員の担当者を決め、利用者と一緒にできる飾りつけがされている。外出した際の記念写真も飾られ、コタツに座る利用者や、ソファーに座る利用者など、それぞれが居心地良く過ごしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい利用者は、廊下のソファーを利用している。ホールでは、各利用者の座る場所などが何となく決まっていて、仲の良い者同士が近くに座り、おしゃべりなどをして過ごしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人には、入所時に自宅で使っていた家具や家電製品の持ち込みを、特に制限なくお願いしている。本人の歩行状態や認知症状なども考慮して、家具の配置などは相談している。	入所の際、家族の意向だけで持ち込みされており、利用者が望む持ち込み家具はあまり見られない。管理者は、自宅で使っていた家具や写真など、利用者が使い慣れたものや、好みのものを持ち込む必要性を感じている。	利用者自身の希望するものの持ち込み等、居心地よい居室を作るための工夫が必要である。入所前に事業所職員が自宅訪問を行い、家族に対してもその必要性を説明するなどして、取り組まれない。
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段には手すりを設置しているが、利用者の歩行時には見守りをし、安全確保に努めている。建物の構造上、車いすやシルバーカーでの移動には限界があり、利用者個々に必要な介助を職員が共有し、必要な時に危険のないように対応している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				